

【大学間協定留学】 留学報告書

| 記入日 | 2024年1月8日 |
|--|--|
| 明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等 | 国際日本学部 国際日本学科 |
| 留学(渡航)した時の学年 | 3年生 |
| 帰国年月日 | 2023年12月31日 |
| 明治大学卒業予定年月 | 2025年3月 |
| 留学先大学について | |
| 留学先国 | タイ |
| 留学先大学 | チュラロンコン大学(日本語名) จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย(現地言語名) |
| 現地使用言語/ 授業使用言語 | タイ語/英語 |
| 留学期間 | 2023年8月～2023年12月 |
| 留学先大学で在籍した学年 | 一年生 |
| 留学先の所属学部等 | <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名:文学部 現地言語での名称:คณะอักษรศาสตร์ <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他: |
| 形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他: |
| 学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬 | 1 学期: 8 月上旬～12 月上旬 2 学期: 1 月上旬～5 月上旬 3 学期: ~ 4 学期: ~ |
| 学生数 | 約35000人 |
| 創立年 | 1917年 |

留学費用

| 留学費用項目 | 現地通貨 (バーツ) | 日本円 | 備考 |
|-------------|---------------|----------|---|
| 授業料 | 0 | 0 円 | 交換留学のため |
| 宿舍費 | 70000 | 280000 円 | 国際寮 CU ihouse に滞在 |
| 食費 | 22000 | 88000 円 | 学食で、一食 40～50 バーツほど。外だと 70～80 バーツ、観光地だとその倍になることも。この合計には飲料水代も含む。寮のサーバーの水が体に合わず、1ダース(12本セットで 70 バーツほど)を5日に1回くらいのペースでコンビニで購入していたため、費用がその分増えた。ドリンクは、学食なら 30～40 バーツくらいだが、外だとその 3 倍ほどすることも。キッチンが無く自炊をしなかったため、想像よりも食費が高かった。 |
| 図書費 | 400 | 1600 円 | タイ語辞書 |
| 学用品費 | 1400 | 5600 円 | 制服、ノート、クリアファイルなど |
| 携帯・インターネット費 | 2200 | 8800 円 | 到着後すぐのツーリスト SIM、長期 SIM、旅行先で使用するための VPN など |
| 現地交通費 | 3500 | 14000 円 | 他大の授業に参加するときの交通費、GrabTaxi、Bike で近場まで行ったとき、電車代の大体の合計。(旅行の交通費はのぞく) 寮から学部までは、無料バスで。(□大学まで徒歩・自転車) |
| 教養娯楽費 | 28000 | 112000 円 | ビルマ語講座、ボランティアキャンプの参加費など |
| 被服費 | 4500 | 18000 円 | 出かけるときの服、山間部に行く際のダウンジャケットなど |
| 医療費 | 1000 | 4000 円 | 10 月に親知らずの抜歯手術を受けた際の出費。最初は自分で立て替え、その後保険を申請し、8 割が戻ってきた。保険申請をしなければ、診療～手術までで 5000 バーツ(2 万円)くらい。 |
| 保険費 | 17000 | 68730 円 | 形態：東京海上日動の海外旅行保険と、チュラ大の保険 |
| 渡航旅費 | 27500 | 101250 円 | 往復航空券の合計 |
| ビザ申請費 | 2500 | 10000 円 | 東京のタイ大使館での、シングルビザの申請費用。渡航後のビザ延長には、1900 バーツ(7600 円)がかかる。 |
| 雑費 | 7500 | 30000 円 | 日用品、家電、洗濯代など |
| その他 | 40000 | 160000 円 | 旅行代、美容院代、趣味代など |
| その他 | | 円 | |
| 合計 | 227500 | 901250 円 | ☑メモしきれていないところ、記憶違いなどもあるので、あくまで参考程度です！ |

渡航関連

渡航経路

往路 出発地: 成田国際空港 **目的地:** スワンナプーム国際空港 **経由地:** 直行便のためなし

復路 出発地: スワンナプーム国際空港 **目的地:** 成田国際空港 **経由地:** ハノイ(ベトナム)

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合
航空会社:

料金:

② 片道ずつチケットを購入した場合
往路 航空会社: タイ国際航空 料金: 61250 円

復路 航空会社: Vietjetair 料金: 40000 円 ∴ 合計: 101250 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名:)

インターネット(サイト名: Sky Scanner)

その他()



滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)

学生寮(寮の名前: CU ihouse) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

大学から、受け入れが決まった後に案内のメールが来ました。ウェブサイトに行き、Google フォームから応募。寮を管理している会社からメールが届けば、入居が可能になります。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

大学の建物からすぐ近くにあり、立地はとても良いです。ただし、4棟から成り、26階建て、およそ800室あるとされる巨大な国際寮なので、“みんな顔見知りのアットホームなドミトリー”という感じでは全くありません。住所の表記には“コンドミニアム”と書かれていますが、バンコクの高級コンドミニアムによくある、ジムやプール付きのラグジュアリーな住環境とは異なり、最低限の生活機能を備えた巨大アパートというイメージを持ってもらえればいいかなと思います。部屋の備え付け機能は、ベッド、棚、勉強机と椅子、シャワー、トイレ、洗面台(左記3つはすべて同じスペース内)、バルコニーと洗濯物を干せる鉄パイプ(、場合によってはソファとダイニングテーブルも)などです。部屋のサイズは2種類から選べ、一人であれば小さめの方(25sq.m)で十分ですが、二人でこのサイズだと窮屈だろうな…と思います。ゴミ捨て場は各階に2か所ずつありますが、その他の色々な共有設備はすべて5階にあります。共有スペースにあるものは、洗濯機、乾燥機、レンジ、流し台、ちょっとしたテーブル、コピー機、勉強ルーム、座って話せるテーブルなど。このスペースを含め、この寮にはキッチンがありません。“自炊をしたい”“友だちと料理がしたい”という方にはここはおすすめしません。また先ほども書いた通り、留学生同士の交流を促進するためのドミトリーでは全くなく、あくまで生活スペースとしての機能しかないので、もっと住んでいる人と距離が近いところがいい、と考えている方にもここはおすすめしません。学生だけでなく、チュラ大関係者なら基本誰でも住めるようで、院生が家族みんなで暮らしている部屋もあるようでした。小さめの部屋で月額14000バーツ(日本円で大体56000円)と聞くと、日本と比べて「お、安い」と感じる方も多いかもかもしれません。私も実際に最初はそうでした。ですが、来てみてから、設備の“最低限”な感じ、これにさらに電気代・水道代がプラスされること、極めつけは、もっと設備が充実していてなおかつリーズナブルな住居がバンコクには多くあること、などを知り、ここでなくても良かったな…と感じる瞬間がよくありました。マイナスなことを続けて書いてしまいましたが、逆にここで良かったことも最後に付け加えるとすると、とにかく多くの人が住んでいるので、たまたま知り合っただけの留学生の友達もここに住んでいる可能性が高いということです。知り合ったあとにお互いがそれを知り、同じところに住んでいるなら近くにごはんを食べに行こうよ、という流れになることが多くありました。最初のころは、同じ学部に来ていて知り合った留学生グループで、ihouseの1階で待ち合わせ、一緒にごはんを食べに行くこともよくありました。

「アクセスの良さ」と「留学生の友だちと日常的に会えるチャンスが多くあること」などを重視したい方にはここを候補に入れることを、「安さ」「設備の良さ」「アットホーム感」などを重視する方には、別の物件から探すのをおすすめします。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 寮近くにある歯科「Clover by sd clinic」。親知らずがあまりにも痛かったので、診療と抜歯手術を受けました。日本語の医療通訳の方が常駐されており、保険申請のための領収書などもスムーズに出していただきました。)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 成績関連でトラブルがあった際、Academic Advisorという方にメールしました。)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

学部のタイ人学生の多くが入るグループLINEに入っていました。何か事件や事故などがあると、“Head”という立場の上級学年の学生を中心に情報が共有されます。英語プログラムということもあり、タイ人学生同士であれどそこでは英語でチャットをしていたので、留学生の私でも内容を理解することができました。実際に、住んでいるエリア内のデパートで銃撃事件が発生した際は、いち早くそこに情報が流れ、私も逐一そのグループを確認して情報を受け取っていました。幸いにも、私自身が事件や事故に巻き込まれたことはありません。すべての大学が同じではないと思いますが、このグループLINEは、学部事務室にQRコードが貼られていたことで入ることができました。学内の掲示板、SNSなどにもこうした情報がのっている場合があるので、ぜひチェックしてみてください。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

現地で購入したSIMカードを挿入したので、常に5Gの回線を使うことができました。(私が購入したのはtrue mobileのもので)寮にはWifiがありましたが、2カ月に1度くらいのペースで、数日間つながりが悪くなるときがありました。そうしたときは図書館に行き、図書館でいろいろ作業をしました。それでも元に戻らないときは、同じ階に住んでいる友だちにも確認をしたうえで、繋がらないから点検してほしい旨を寮のカウンターまで伝えに行きました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

チュラ大では、大学が提携している銀行の口座を誰でも開くことができます。到着して3週間ほど経ったときに、大学から口座開設のための紙のドキュメントを受け取り、それと、パスポートなどを持って近くの銀行窓口まで行きます。(私はChamchuri Branchに行きました。)そこで渡される資料にいろいろと情報を書き込んで提出をし、申請は完了です。人によるとと思いますが、私はそれから10日間ほど経ったあとに、口座番号と通帳を受け取ることができました。番号を受け取ったあと、係の人のサポートを受けながら、アプリの使用方法和ATMの操作方法を知ります。この時点でまだ引き出しのカード自体はありませんが、アプリを介したQRコード決済(Prompt Pay)ができるようになります。タイはQRコード決済が主流になってきているので、この機能があるととても便利です。カード自体は、その後自分でさらに申請をし、日にちを改めてまた同じ窓口まで受け取りに行きます。このカードが学生証の機能も果たすので、テストの際には必須になります。普段使う場面はあまり多くないかもしれませんが、テスト直前に慌てないためにも、早めにカードも受け取っておくことをおすすめします。(口座を開くことは、必須ではありません。私の友だちにも、開いていない人は何人もいました。引き出しの機能がない、学生証としてだけのカードも受け取れるはずです。)

お金の調達方法ですが、私は日本でしっかり準備をととのえられておらず、現地であたふたする羽目になりました。

なんとか編み出した方法として…自分の日本で使っている銀行のアプリを介して、母の口座に必要な額を送る⇒母がそれを、ダウンロードしてくれたアプリ“Wise”(海外送金が低額の手数料でできるアプリ)にそのまま入金。そこから私のタイの口座に送金される⇒タイの銀行アプリでそのお金をバーツで受け取る というもので、これでなんとかお金を調達することができました。“Wise”の登録を済ませてから現地に行くことを強くおすすめします。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

バンコクでは、暮らしに必要なほとんどのものが手に入ります。ただし想像以上に値段が高かったり、選択の幅がせばまってしまうようなものもありました。特に、高品質な日焼け止めは軒並み高いです。一般的なサイズで 750 バーツほど(3000 円くらい)する場合もあるので、少し余分に持って行くのをおすすめします。また、もし荷物に余裕があれば、冬用の服も持っていくといいと思います。常夏の国といわれるタイですが、12～1 月は乾季のため、北部の地域は夜にぐっと冷え込みます。チェンマイ、チェンライやイサーン地方などに旅行をする場合は、しっかりした防寒着が必須です。ただ、タイ国内での需要はあまり高くないために買える場所が少ない＆値段が高いため、あらかじめ日本で使っていたものを持っていると便利です。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)



学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

| | |
|---|--|
| 1) 留学先で取得した単位数合計 | 本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。 |
| 9 単位 | <input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:) |
| 2) 履修登録の時期・方法及び履修制限 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった: | |
| 3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。 | |
| 履修した授業科目名(留学先大学言語) | 履修した授業科目名(日本語) |
| Communicative Thai for Foreigners | 外国人のためのコミュニケーションタイ語 |
| 科目設置学部・研究科 | 文学部(BALAC) |
| 履修期間 | 8~11 月 |
| 単位数 | 3 |
| 本学での単位認定状況 | 一単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義 (チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1 週間に 180 分が 15 回 |
| 担当教授 | Kiat Thepchuaysuk |
| 授業内容 | 基本のタイ語(とくにリスニングとスピーキング)、頻繁に使われる語彙や文型の習得、さまざまな場面における言語使用の実践 |
| 試験・課題等 | 中間・期末テストは、それぞれペーパーでのテストと、期末のみ先生と1対1でスピーキングテストがある。 これらのテスト以外に、3回に1度くらいのペースで、個人かペアで授業で習った語彙や文型を入れたタイ語の会話スクリプトを作り、話している様子をビデオに収録して提出する課題があった。 |
| 感想を自由記入 | 留学生のみが受講する、現地で暮らすためのタイ語を学べるクラスです。このクラスは、すでにタイ語について少し知っている人が参加するとちょうどいいレベルといった感じで、これともうひとつ、全くこれまでタイ語に触れたことがない人が参加する Basic Thai というクラスもあります。 私は日本で、ゆっくりなら日常会話ができる程度のタイ語をすでに習得していたので、その復習をしながらプラスαを教われたという感覚でした。ただ、日本で学んでいたときよりも、より“現地で生きていくために知っていた方がいいこと”にフォーカスし、実際にすぐ活用できる語彙も多く学べたので、参加して良かったと思います。このクラスは全員が留学生ですが、交換留学生はもちろんのこと、大学院生として留学しすでに1年以上タイに暮らしている学生もいたりしました。色々な人と話せるチャンスがあること、また、他の国から来た留学生がどんなところを難しいと感じるのか、逆に普段どんな言語を話している人がタイ語の習得も早いのかなども知ることができ、とても面白かったです。先生の説明も丁寧かつスピーディーでとても楽しい授業でした。この先生は他のタイ語基礎クラスもいくつか持っているの、チュラ大に来る方はぜひこの先生からタイ語を教わってみてください。 |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語) | 履修した授業科目名(日本語) |
| Language in Socio-cultural Contexts | 社会文化における言語 |
| 科目設置学部・研究科 | 文学部(BALAC) |
| 履修期間 | 8～11月 |
| 単位数 | 3 |
| 本学での単位認定状況 | —単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に180分が15回 |
| 担当教授 | Pavadee Saisuwan |
| 授業内容 | “言語”の定義づけ、言語形態と意味の関係、言語と社会のかかわり、口語以外の言語、言語と社会文化アイデンティティ(言語から見える世界)、隠喩、言語学のマーケティングへの応用、多言語社会、ASEANにおける言語多様性、言語とジェンダーとセクシュアリティ。 |
| 試験・課題等 | 中間、期末はそれぞれペーパー試験あり。 ほとんど毎回の授業で、授業内のペーパークイズか、Course Ville という学習ウェブサイトを使用したクイズが出される。 |
| 感想を自由記入 | “言語学”と名がつく授業はこれまでに国日でいくつも履修したことがありますが、そのどれにも増して多様な視点から「言語」について学ぶことができました。最初の数回の授業では、言語学のベースとなる様々なワードやその意味を学び、徐々に“文法について”“文章における、状況に応じた言葉の選び方”、さらに“社会と自分のつながりに関する語彙”“東南アジアにおける「英語」”など専門的な視点へとテーマが広がっていきました。 専門用語が多く、また先生の進めるスピードもとても早かったことから最初はついていけなくてやっとなりましたが、頻りに授業のなかでエクササイズ問題が入っていたため、インプット⇄アウトプットを多くでき理解しやすかったです。「東南アジア」という地域の特徴を活かしたテーマ選び、そして世界中の言語とタイ語・日本語を比較してその違いに触れられる場面も多くあったので、とても面白い授業でした。 |



| | |
|-------------------------------------|---|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語) | 履修した授業科目名(日本語) |
| Asia and Making of the Modern World | アジアと現代社会の成り立ち |
| 科目設置学部・研究科 | 文学部 BALAC |
| 履修期間 | 8～11月 |
| 単位数 | 3 |
| 本学での単位認定状況 | —単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に180分が15回 |
| 担当教授 | Stephanie Santos |
| 授業内容 | 世界の“近代化”とアジアとの関係を分析するための理論と概念について学ぶ。アジアの植民地体制と、その後の体制がどのように構築されてきたかを、多様な視点から比較する。(例:東側と西側、非科学と科学、“遅れたもの”と“進んだもの”)また、“暴力”や“不正義”についての例を学ぶかわら、アジアにおける“抵抗”や“エンパワーメント”の実践についても知る。さらに、“世界近代化”という覇権主義的な言説にはこびる、植民地主義的、西欧中心主義的な偏見に対する批判的なアプローチの仕方も学ぶ。今学期取り上げる主な領域は、“環境”“労働と移民”そして“地域を超えた連帯”である。 |
| 試験・課題等 | Zoom 授業のためテストは無いが、中間と期末はエッセイ(1000字程度)の提出がある。また毎回授業後に、Google Classroom を用いたクイズとライティング課題がある。 |
| 感想を自由記入 | タイ、東南アジアにおける、人々の社会や政治に対する関わり方に強い関心を持っていたので履修を決めました。Zoom形式の授業ではありましたが、毎回のトピックごとに様々な文献や関連するビデオ・音声などが提供されたため、理解を深めることができました。 “東”に対する“西”の視線やアプローチについてまず学び、その後は世界が近代化するうえでアジアが期待された役割、不平等や差別、そしてそれに対する抵抗・連帯の動きなどへと話が広がっていきました。“労働”“移民”“地球環境”など幅広い視点から不平等や差別の実態を学び、さらに、人々がそれにどのように闘ってきたか、どういったアイデアが今までに生まれてきたのかなどにも触れることができたので、とても面白い授業だったと思います。 |

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

| | | |
|----------|---------|--|
| 留学開始年の前年 | 1月～3月 | |
| | 4月～7月 | TOEIC、タイ語検定の受験 |
| | 8月～9月 | インドネシアでの短期ボランティアプログラムへの参加、TOEFL iBT 受験 |
| | 10月～12月 | 先生からの推薦書の執筆をお願いし、受け取る(チュラ大への提出必須) |
| 留学開始年 | 1月～3月 | 留学先大学への出願 |
| | 4月～7月 | 奨学金支給団体への応募と面接、航空券取得、タイ大使館でビザ申請 |
| | 8月～9月 | 8月3日に出発 |
| | 10月～12月 | 12月末に帰国 |
| 留学/帰国年 | 1月～3月 | |
| | 4月～7月 | |
| | 8月～9月 | |
| | 10月～12月 | |

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

タイを訪れるのは、実は今回が4回目でした。はじめてタイと縁ができたのは自分が中学3年生のとき。かかわった人たちの様子、街の雰囲気、食べ物、言葉…さまざまな点でこの場所に強く惹かれました。そのときは単になんとなく“好き”という感情があっただけでしたが、時を追うごとに、より色々な角度からこの国について知りたいと思うようになりました。ここでの暮らし、文化風習、地理的な特徴、歴史、エンターテインメント、政治、人々の社会へのかかわり方…現地に行くことでより視野が広がりそうな様々な分野のことに興味を持ったので、今回留学することを決めました。

強い意志があったとはいえ、外国に住むこと、ましてや一人暮らしをすることも初めてだった私にとって、最初は生活全般で苦しいことの連続でした。住環境、お金のこと、これまでとまったく異なる大学生活のリズム、ビザ関連のこと…もともとから“好き”だった場所で、この留学に対する理想も高く持っていたからこそ、その分上手くいかないことが起きたときのダメージが大きくなってしまっていたように思います。最初の1か月は、新しい生活を始めるための準備、人との関係づくり、コミュニティ探し…とめまぐるしく過ごし、時間があつという間に過ぎていきました。2カ月目に入ったころから、ようやくお金の問題が解消され、少しずつ生活のリズムもできてきました。週末には、バンコクはもちろん、郊外のような場所に足を運ぶ一方で、自分の普段の暮らしも充実させたいと思い、大学でのオープンクラス(明治の「共通科目」に近い感じ)への参加や近所でのコミュニティ探しなども積極的にしていました。行動するなかで新たに色々な人との縁ができ、そこからより活動の幅が広がっていったようにも思います。単位を最終的に取得できた授業については上に記載しましたが、単位取得しなかったものを合わせると、実はその倍の数のクラスに参加をしていました。コミュニティが欲しいな、という軽い感覚から参加し結果的に思いがけない素敵な経験につながったビルマ語のクラス、タイ人の学生がバディになってくれたタイ語クラス、そして、他大学まで足を運んで参加をした日本語クラスでのTA…。どれも、単位という結果にはなりませんでしたが、人とつながるチャンスをくれ、この留学をより充実させた貴重な経験になったと思います。長期留学、とくに1年間行かれるかたにとっては、“単位取得”が大きな目標のひとつになるかもしれません。ですが、“単位をとらなければ”という気持ちにがんじがらめにされてしまうと、自由な学びや、思いがけない出会いを見逃してしまいかねないように思います。単位取得もふくめ、留学先には“ここでしかできないこと”が豊富にあり、そのどれもがかけがいのない財産になります。“やらなければいけないこと”はほどほどに、自分の心が向くこと、“面白い!”と思ったことにぜひ時間を使ってみてほしいです。そうしたことで私は色々な出会いがありましたし、つき進んだ先で学べたことは、想像以上のものでした。

少し現実的な話もすると、行く前の準備をできるかぎりしておくことも、行った先での経験をより豊かにするために本当に大切です。英語での授業に苦手意識があるなら英語を、英語圏以外の国での留学の際は、生活のために現地語を基本レベルでも良いので勉強しておくこと。また、お金の調達方法をしっかり考え、万が一のときのための対処法も考えておくこと。どの場所に行っても、そこで必要な「もの」は何かすれば手に入れることはできますが、現地に行っただけでは間に合わないこと、準備をしておかなければ本当に困ることは多くあります。時間がかかるな…面倒そうだな…と思うことほど実は大切で、かつ後から自分を助けてくれるので、準備は可能な限りていねいにやることをおすすめしたいです。そして、どれほど準備をしてもダメなこともまた出てきます。そうしたときは、まず自分の安全や精神面の健康を守ることを優先してほしいです。目の前の何かが上手くいかなくても、元気で暮らせてさえいれば、また他に素敵なチャンスはめぐってきます。辛いことがあり、追い込まれてしまったら、“頑張る”以外に“逃げる”“手を引く”という選択肢があることを忘れないでください。またどんな場面でも、“自分ひとりで何とかしなきゃ”と追い込み過ぎるのも禁物です。まったく新しい環境で暮らすうえで、どうしても人の手を借りなければいけない場面は出てきます。私ももちろんのこと、みんな助け合って、留学を乗り越えていきます。現地で知り合った人、友だち、家族、先生…誰にでも助けを求めていいんだよということを最後に伝えたいです。

色々ありましたが、今となっては留学して本当に良かったと思います。

他にも同じように書かれている方はすでに多いかと思いますが、もし迷っているならぜひ「行く」方に進んでみてほしいです。

皆さんが充実した留学生活をおくれますよう、応援しています。